

板橋駅西口駅前広場再整備計画（進捗版）

えん
の
もり



まちの課題解決

車中心から人中心へ、駅前広場の更新を行います

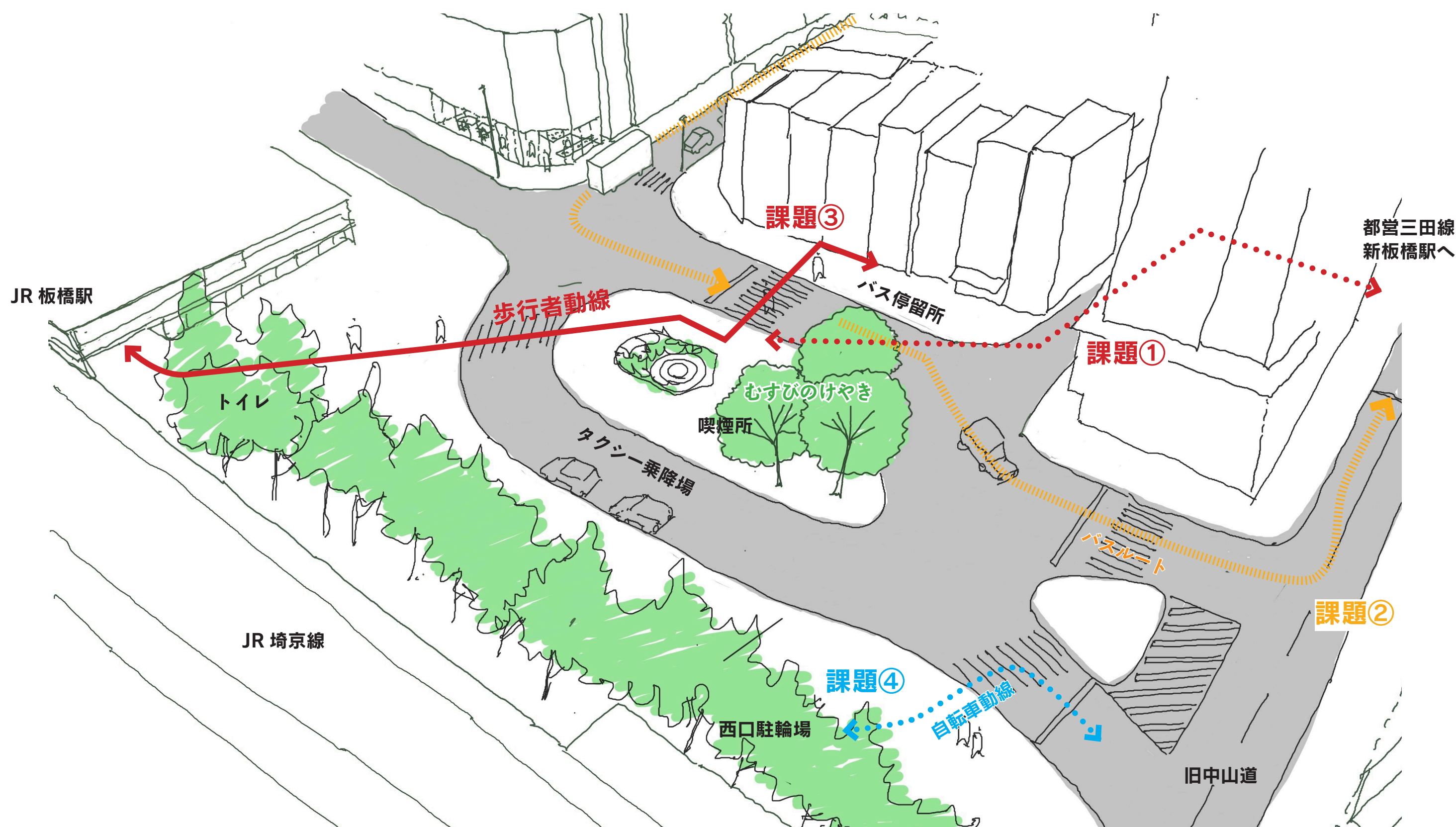


図 1 : 現在の駅前広場

板橋駅西口の駅前広場は、昭和 43 年頃に献木されたシンボルツリー「むすびのけやき」とともに、区民の皆さまに親しまれてきました。しかし近年、ゲリラ豪雨や首都直下型地震等の都市型災害のリスクが高まり、また、人口減少やコロナ渦を経て価値観が変化をする中で、自動車交通をさばくことを意図した車中心の空間から、居心地の良い日常空間でありながら災害への備えを持つ緑豊かな人中心の駅前広場へと更新していくことが求められています。

現状の主な課題としては、① JR 板橋駅～都営三田線新板橋駅間の乗換え動線における歩行者の乱横断、②旧中山道合流部でのバス左折、③バス停留所が駅から遠く、身体障がい者用及び一般車用の駐車場がないこと、④自転車の歩道への流入などがあります。

これらの課題の解消や、今日的な社会ニーズへの対応に向けて、現況の交通量調査、地元の方々へのヒアリング、交通事業者・交通管理者との協議、区民の皆さまとのワークショップでの意見を元に、安全で利便性が高く、居心地の良い駅前環境を実現すべく、整備計画更新に向けた検討を進めています。

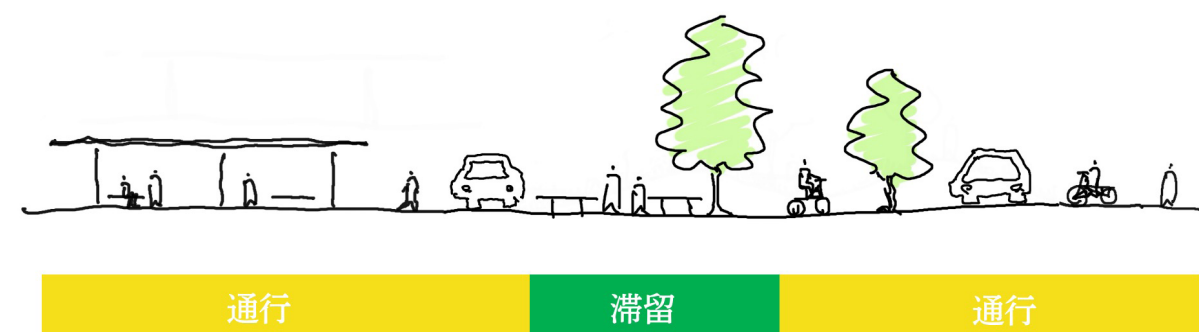


図2：これまでの駅前広場の「車中心」の考え方



図3 | これからの駅前広場の「人中心」の考え方

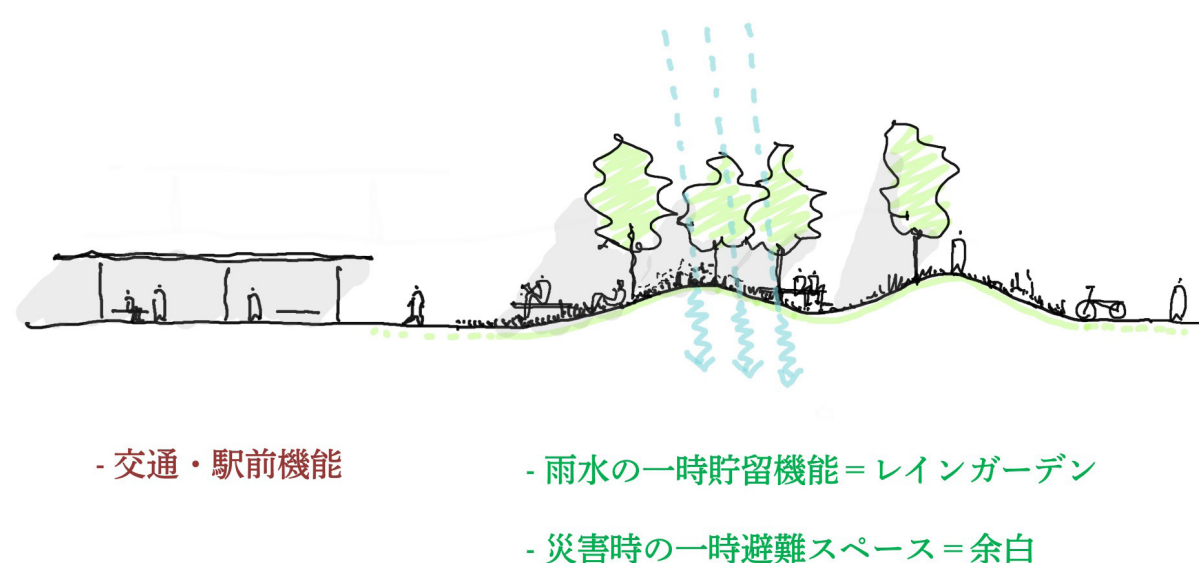


図4：これからの駅前広場が果たすべき役割

デザインコンセプト

緑の中でおおらかに混ざり合う駅前広場

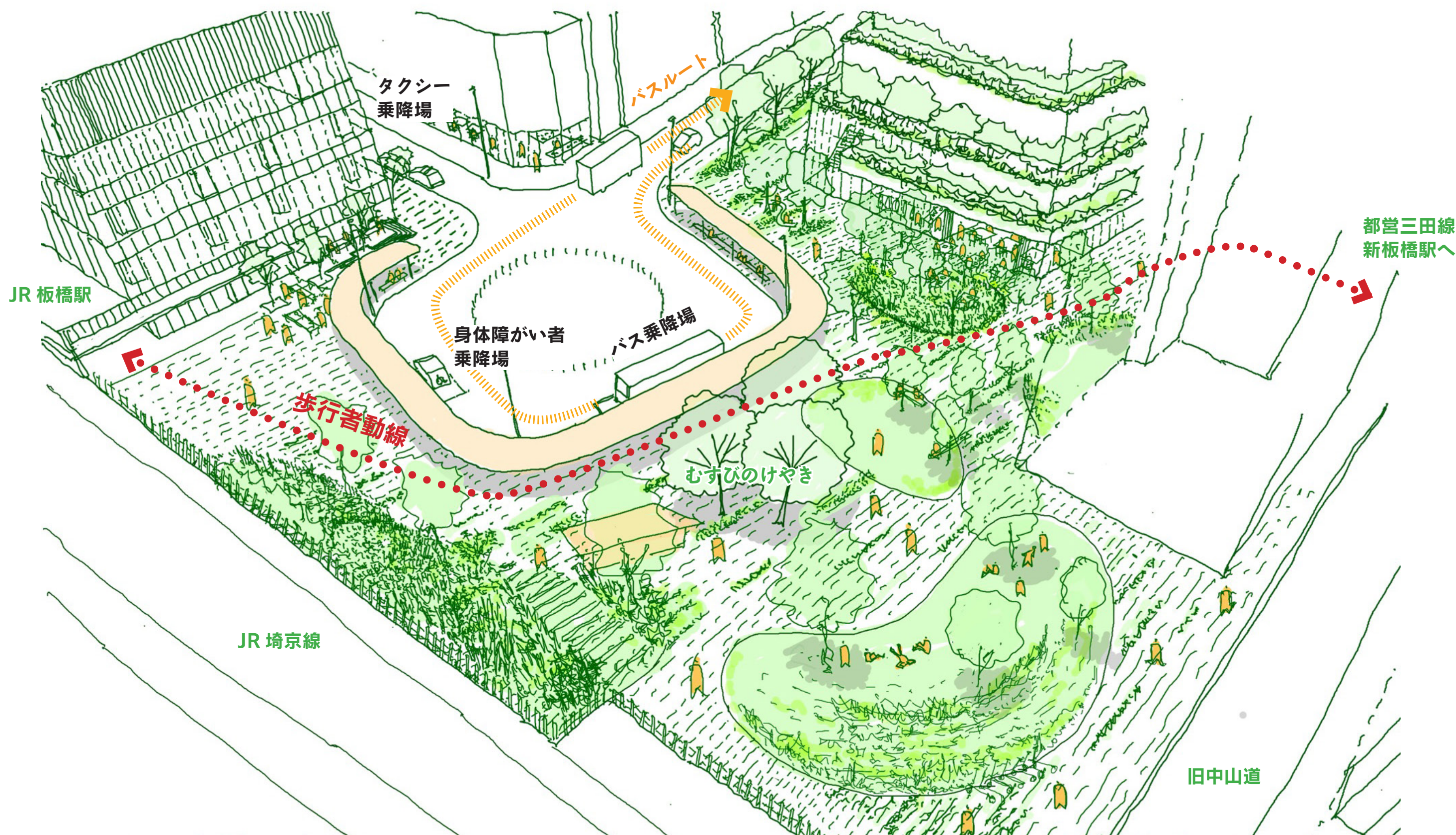


図5：新しい駅前広場のコンセプトスケッチ

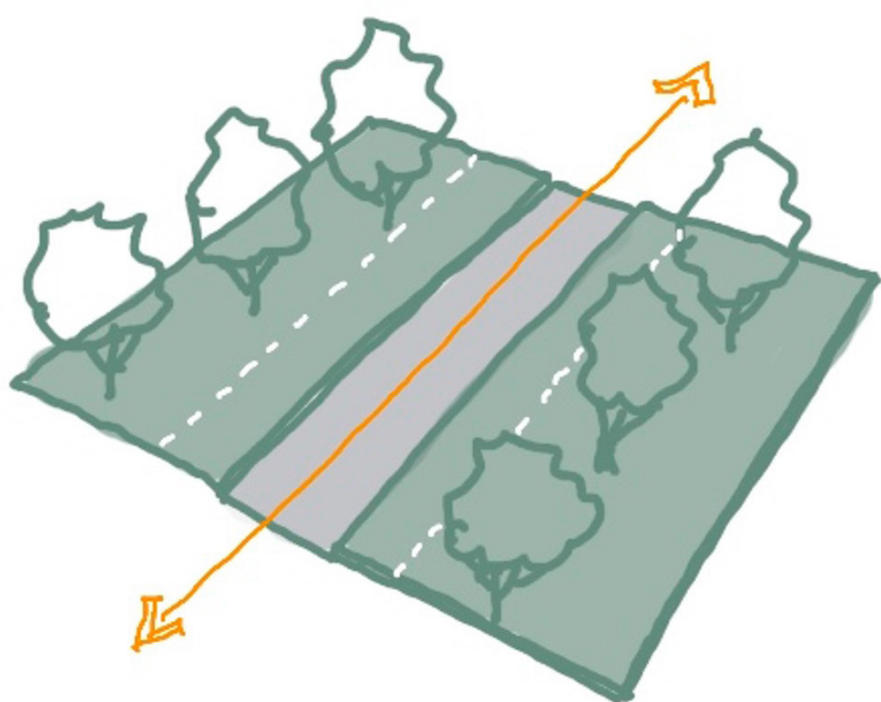


図6：通行と滞留を区分するこれまでの考え方

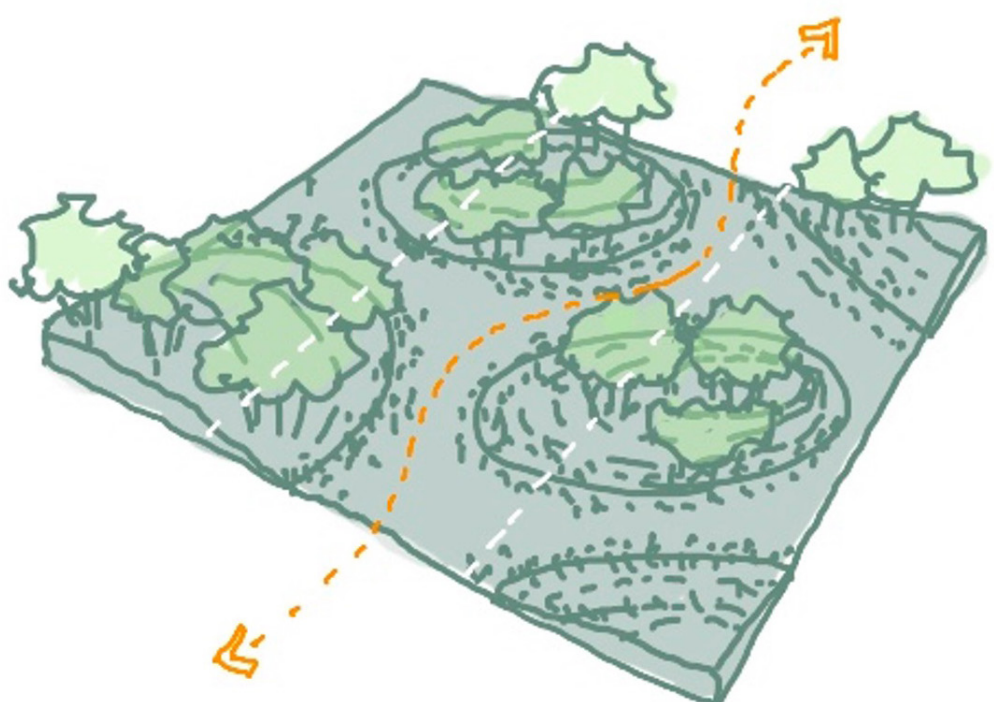


図7：通行と滞留が混ざり合うこれからの考え方

新しい駅前広場は、人中心の駅前広場です。これは地区計画の目標として定められた「緑豊かな環境」を駅前広場で実現するものです。豊かな緑の整備が循環型社会のシンボルとなり、同時に都市型災害に対する地域レジリエンスを高めるように、2つの再開発事業と一体となったインフラ整備をめざします。

豊かな植栽計画に合わせて、広場全体が地域活動の受け皿となり、地域コミュニティ醸成の場となっていくために、キャノピー（庇）により夏場の涼しい滞留空間を確保し、再開発の商業施設と連携した庇空間の整備を行っていきます。また、情報の整理についても力を入れていきます。駅間移動のわかりやすさを向上させる誘導サイン、中山道の歴史を伝える歴史サインなど、利用者の目線で使いやすい空間整備をめざします。

交通機能の改善だけでなく、誰もが快適に、時に一人でも静かに過ごすことができる快適な空間に生まれ変わる駅前広場は、新しい時代に向けた先駆的な取組となるでしょう。

設計プロセス

駅前広場の使い方のアイデアを
区民の皆さんと一緒に考えてきました

令和6年度は、6月、8月、10月の計3回「板橋駅西口駅前広場の未来を考えるワークショップ」を開催しました。過年度にいただいた意見と今年度いただいた意見を整理し、整備計画更新に向けて計画・設計を進めていきます。

また、板橋口地区・西口地区の両再開発事業者とも事業者間ワークショップを開催し、広場への商業からのにじみ出しやイベント開催に向けた法的整理と空間の運用方針、サインの連携等について話し合っています。利用者にとって使いやすい駅前空間とするため、今後も話し合いを重ねていく予定です。



図 8：駅前広場の未来を考えるワークショップの様子

2019 年 板橋駅西口周辺地区まちづくり勉強会
駅前広場検討部会ワークショップ



2024 年 板橋駅西口駅前広場の未来を考えるワークショップ

第 1 回

A ～ D の 4 班に分かれて、新たな駅前広場（周辺エリアも含む）で、自分で / みんなで「やりたいこと」をアイデア出して共有しました。過年度のアンケートや WS など得られた区民の皆様からの意見も含め、運営側でグルーピング・図式化しました。



第 2 回

第1回で出していたアイデアをまとめたシートにさらにアイデアを重ねました。また、模型を囲み、具体的な場所をイメージしながら利用している姿やレイアウトを考え、そのために必要なしつらえについても意見をかわしました。



第 3 回

前2回の WS を通じていただいたアイデアを整理・図式化したシートと、行為や活動がプロットされた模型などをご覧頂きながら、「いいね」と思うものを皆さんと共有し、実現に向けた「課題」を出し合いました。様々な世代からの具体的な意見が議論されました。

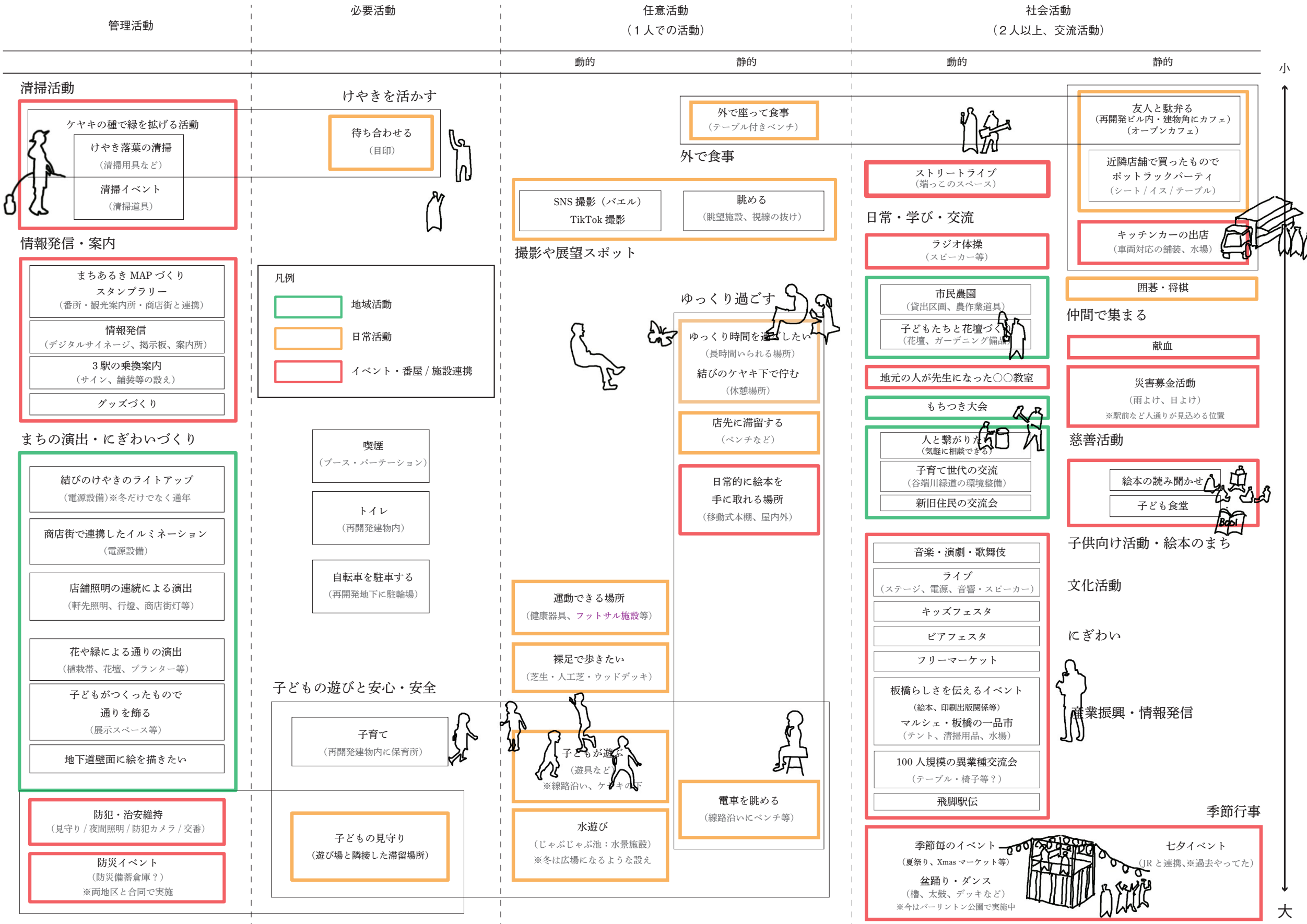


図 9：第 3 回ワークショップ資料（過年度の意見と R6 年度ワークショップでの意見の重ね合わせシート） ※板橋区役所 HP からもご覧になれます

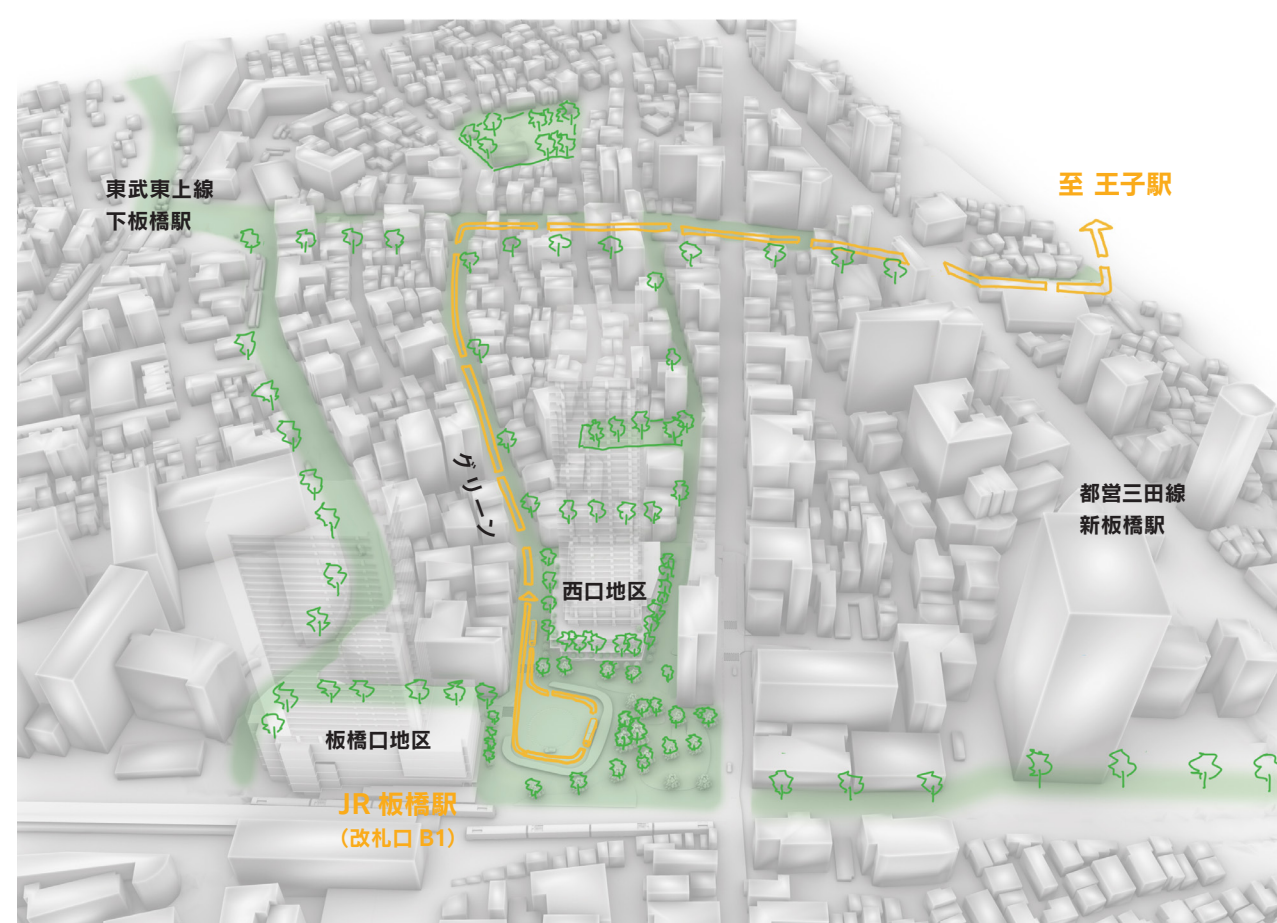
交通ネットワーク

3駅が近接する好立地を活かした 交通利便性の高い人中心のエリアへ

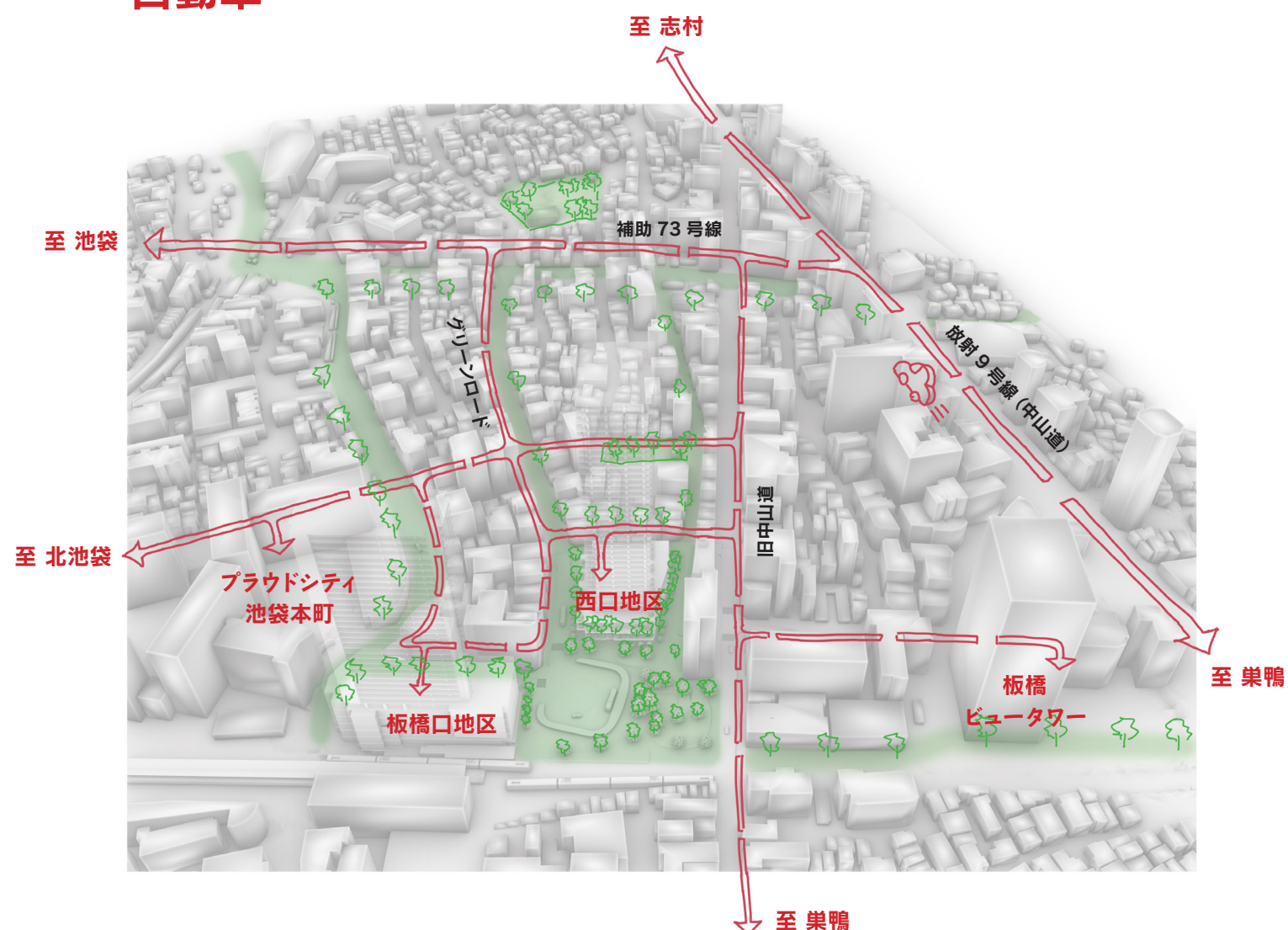
板橋駅西口周辺エリアは、都心からもほど近く、JR 板橋駅、都営三田線新板橋駅、東武東上線下板橋駅という3駅に囲まれています。その好立地を生かし、交通と緑のネットワークをつくることで、「人中心」の緑豊かで楽しく歩ける先進的なまちをめざします。

西口駅前広場の再整備により、バスは旧中山道を通さずグリーンロードで出入りする動線へと変更し、公共交通の軸とします。また、旧中山道側から西口駅前広場への車道の接続をなくすことで、自動車の通過交通を駅前から排除します。さらに、西口駅前広場に設置されていた駐輪場を再開発ビル内に整備予定の駐輪場へ集約し、西口駅前広場の外縁部にモビリティポートを配置することで、自転車の駅前広場内への流入も防ぎます。これらの取組により、板橋駅西口周辺エリアを、将来的に歩行者優先のエリアとしていきます。

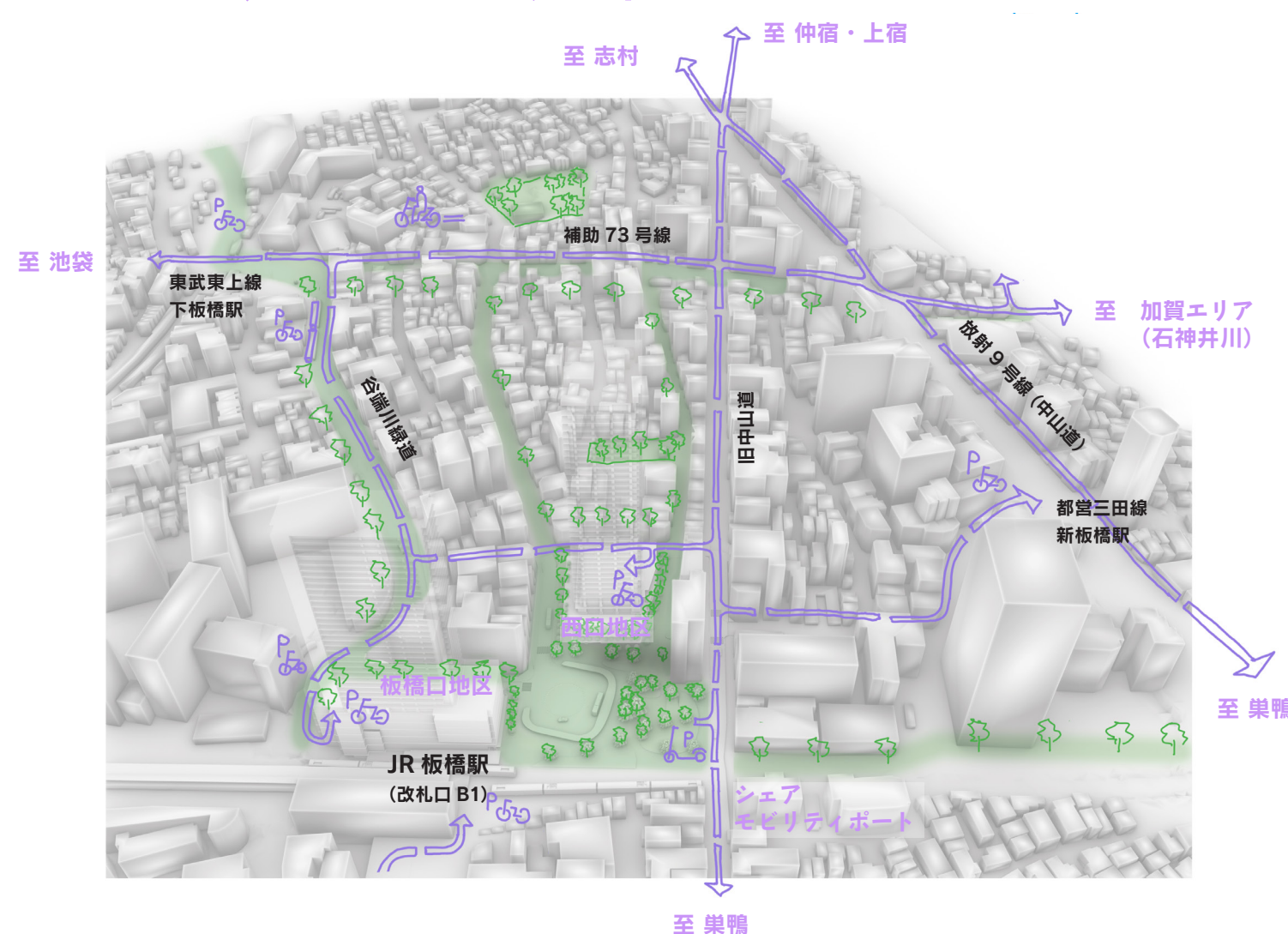
公共交通（バス）



自動車



自転車、シェアモビリティ



歩行者

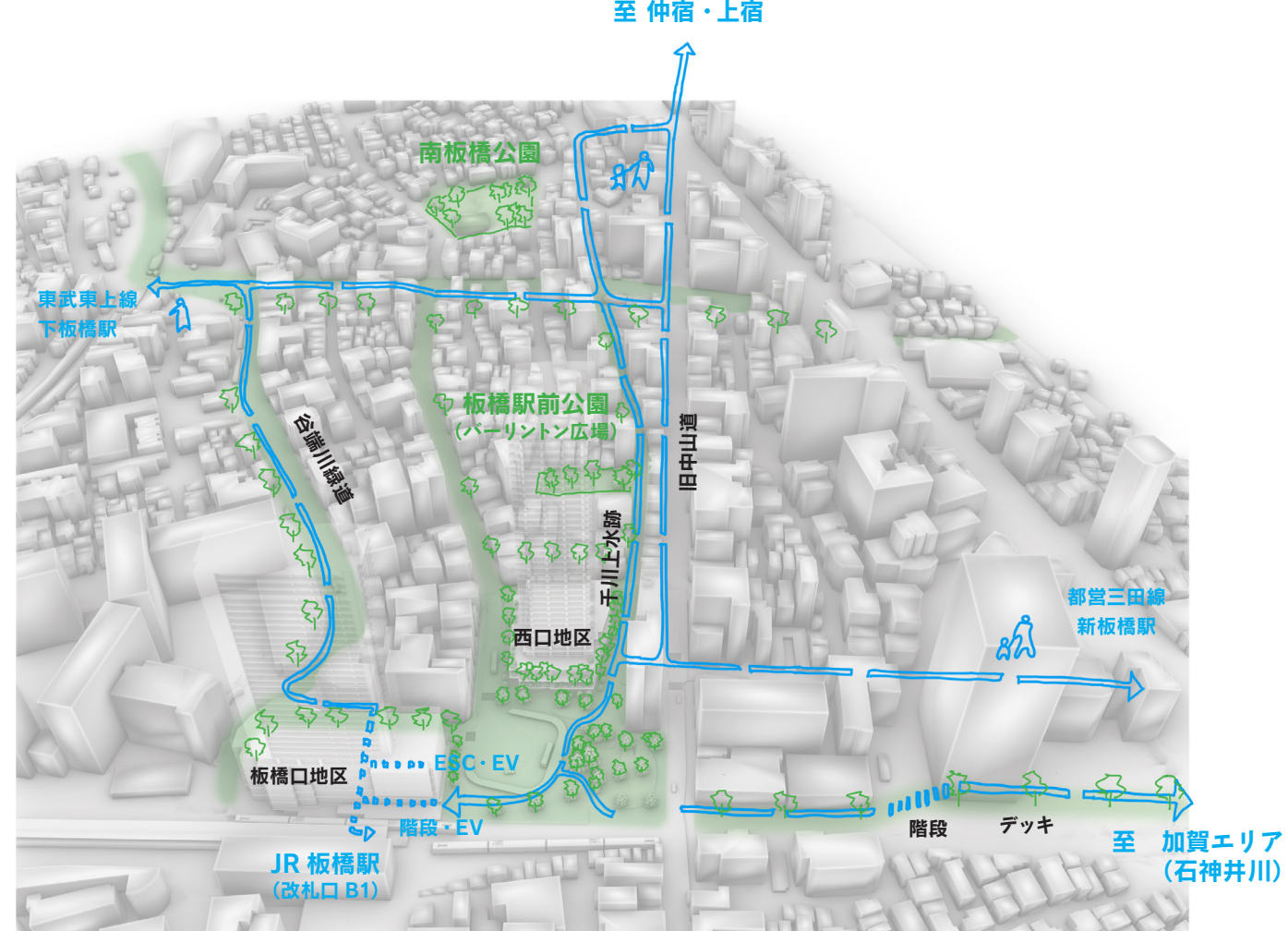


図 10：板橋駅西口周辺エリアの将来交通ネットワーク

計画中の駅前広場と周辺地区の模型

今後も開かれたコミュニケーションの場を設けながら、令和7年度以降も設計を進めていきます。

ロータリー部にはキャノピーを設けます。雨や夏の日差しから守られる空間となると同時に、子どもの見守りの場などにもなります。

旧中山道との合流がないロータリー形式とすることで、安全性が向上すると同時に駅前広場内の複雑な交通規制がシンプルになります。

視覚障がい者をはじめとした身体障がい者にとっても、健常者にとっても、使いやすく豊かな日常の空間体験ができる広場をめざして設計を深度化します。

タクシー乗降場

至 東武東上線
下板橋駅

再開発ビルと連携した広場の使い方や管理・運営の方法を議論していきます。

板橋口地区再開発事業
(4Fに公益エリアを整備)

募金活動をしたい

JR 板橋駅

至 東武東上線
下板橋駅

西口地区再

駅前広場内での道路横断がない
を実現し、安全性が飛躍的に

子どもの遊び場（水遊び）
と見守りの場をセットに。

近隣店舗で買った
ポットラックパーテ

ロータリーを封鎖して
季節のイベント（盆踊りなど）

バス乗降場

身体障がい者用乗降場
(一般車兼用)

止まれ

歩行者動線

情報発信・防犯
見守り・相談の場

身体障がい者用駐車場（一般車も兼用）を新設します。
バス乗降場は駅に近い位置に移設します。道路横断なく
乗り換えでき、利便性・安全性を向上させます。

公益エリアのサテライト施設として、
地域活動の拠点となる番屋を設けます。
(観光案内 + 維持管理 + 見守りや相談窓口)

既存駐輪場を撤廃し、自転車の流入をなくすことで、
安全な駅前広場をめざします。(駐輪場は再開発ビル内に新設されま
線路沿いには、鉄道事業者と協力して開放的で緑豊かな空間をつくり

図 11： 西口駅前広場の活動のイメージと今後の検討方針

再開発事業
い乗換え動線
向上します。

もので
イ。

至 都営三田線
新板橋駅

むすびのけやきの下で、
子どもからお年寄りまで老若男女問わず
誰もが憩える空間とします。

ストリートライブ

むすびのけやき

むすびのけやき
の下で待ち合わせ

日常的に絵本を
手に取れる場所

1人でもゆっくりと
時間を過ごせる場所

様々なイベント
ができる場所

旧中山道

キッチンカーの出店

シェアモビリティポート

電車を眺められる場所

旧中山道

ハイレイフプラザ →

緑をひろげる活動
(市民農園、花壇づくり等)

JR 埼京線

す。)
ります。

	2023 (令和 5)	2024 (令和 6)	2025 (令和 7)	2026 (令和 8)	2027 (令和 9)	2028 (令和 10)	2029 (令和 11)
板橋口地区 再開発事業					▼ 住宅引き渡し		
		R4.12~ 工事着手	建築本体工事		▼ 商業施設開業		
公益エリア		整備計画					
			設計・工事		▼ 開設		
西口地区 再開発事業					工事		▼ 開設
西口駅前広場 再整備			設計		工事		▼ 整備完了

図 12：今後のスケジュール

